

小医は、順天堂大学放射線科医学教室の青木茂樹教授の後任としまして、新たに編集委員となりました東邦大学医療センター大森病院放射線科の堀正明と申します。この場を借りてご挨拶申し上げます。本誌の編集委員の先生方は御高名な方々が多く、小医では無論まだまだ力不足ですが、唯一の放射線科医の編集委員としまして、本誌のさらなる発展に尽力したいと存じます。従いまして、本誌における編集後記も初めてとなります。

さて、私の専門は画像診断、特にMRIを用いた撮像方法や解析などが研究テーマとなります。脊椎脊髄のMRI画像に関しては、以前より感じていることがあります。脊椎脊髄のMRI撮像は、歴史的には脳と同様比較的早い時期より臨床で用いられてきたと思います。その後、さまざまな医用画像機器の進歩がありました。脊椎脊髄のMRI画像に関して申しますと、基本はT2強調像、T1強調像、場合によってはSTIR像やT2*強調像、造影剤を使用したT1強調像を矢状断および横断像の方向で撮像、神経根などを観察するのに冠状断像が追加されるくらいで、これらは30年間ほど変化がないのではないかと思います。もちろん、以前よりも高速で撮像が可能となる、アーチファクトを低減するような技術の改善がある、3Dでの撮像が比較的容易になるといった進歩はあるのですが、画像のコントラストそのものには大きな変化はありません。画像による病変の評価、診断学という観点からしますと、無論長年の画像所見の知識の蓄積が重要ですので、撮像方法が大きく変化する必要はないのかもしれません。ただ、MRI装置の進歩に伴い、たとえば脳では臨床で用いる撮像において μm 単位の構造の可視化、評価やミエリンなどの定量化の話題が出ているのに比較して、脊椎脊髄のMRIではそのような進歩とその恩恵から若干取り残されている感があります。本号の特集で扱われています脊髄炎に関しても、MRIでの診断のベースとなるのは、脊髄内の局在、異常信号の形態ですが、信号のパターンそのものはT2強調像での異常高信号であり、この異常信号そのものは非特異的です。逆に、まったく臨床情報がなければ、このような異常信号からの鑑別診断は脊髄炎のほか、血管障害（脊髄梗塞など）、腫瘍性病変など多岐にわたり、画像での診断はできないことになります。今後、疾患や病態に関する画像についての情報のほか、臨床に有用性の期待できる新しいMRI撮像、解析技術も紹介していけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(堀 正明)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素麿 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

山崎正志（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
谷 論 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘

Vol. 34 No. 5
(2021 年 12 月 10 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価（本体 2,500 円＋税）

（配送料別）

年ぎめ予約購読料 33,300 円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2021,
Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。